

令和 7 年 12 月定例会一般質問 要約版

質問者 永友 美智子 議員

【排水路について】

質問 1

議員：白鬚・尾脇地区の排水路について、近年の豪雨により道路破損や庭先への浸水が発生している現状をどう認識されているか。

町長：当該排水路の問題は認識しており、道路パトロールや住民の通報により道路管理区域において迅速に復旧対応していく。

建設課長：地域住民の要望聞き取りだけでなく、過去に要望書の提出もあり特に認識している。但し大きな道路改良は通学路や交通量の多い場所に補助事業の対象が限定されているため。町単独事業での大きな改良は難しい状況である。適切な維持管理に努めたい。

質問 2

議員：上記排水路について、山から水を受けてプールする場所があるが狭くまた排水路も小さく感じた。今どこの地域でも線状降水帯による大雨で多大な被害を受けている。大変な事が起こる前に、何らかの対策をうつお考えはないか。

町長：地球温暖化による影響については認識している。全部の道路排水を短期間で改良することはできないが、随時行っており、今後に対応していきたいと考える。

建設課長：通報に基づき随時対応している。既存の側溝は降雨確率年 3 年を基準に設計されており、近年の集中豪雨では排水能力を超えるケースが町内全域で確認されている。大規模改良は補助事業の対象が限定されるため難しいが、維持管理を継続し、必要に応じて改善を検討する。

質問 3

議員：上記地区の排水路と用水路が一体化した 1Km 以上の距離を地域住民が他面的機能支払交付金を活用して維持管理を行っている。今後住民の高齢化や担い手不足により維持管理が難しくなるかと思うが、どうお考えか。

町長：当該水路については町道白鬚尾脇線の道路側溝で、用水路と排水路を兼ねた水路になっている。対象の用水路は受益者管理で、道路側溝の維持・補修は町が補修する事になると認識している。地域資源の保全管理について現在町内 32 組織で活動をおこなっており、適正に維持管理しているが、厳しい現状であると認識している。

農地課長：町内全体の活動組織において、今後担い手の減少や高齢化により、組織が衰退し、地域資源の維持・管理が困難になって来ることが予想されると認識している。

質問 4

議員：認識されている中において、今後どのようにしていくお考えか。

町長：組織の衰退は近い将来起こり得る問題だと認識している。町としてはそのような課題に対して、可能な限り支援していきたいと考えている。

農地課長：活動が困難になる対策としては、交付金を活用している以上は原則地元の組織で管理しなければならないと考える。しかし、どうしても構成委員で対応できないような場合は、アルバイト雇用や外部委託、非農業者の参加など柔軟な対応が可能である。問題が生じた場合は相談して頂き、制度を上手に活用しながら対応していきたいと考える。

【空家バンクについて】

質問 5

議員：最近よく空家はないかの声を耳にする。バンク登録件数が少ないと聞くが、現時点での登録件数並びに件数が少ない理由をどう分析しているか。

まちづくり課長：現時点での登録件数は 3 件である。登録が進まない理由として、相続未完了、抵当権、建物の老朽化、家族間の意見不一致などがあげられる。登録促進策として、片付け補助金や改修補助金が利用できるほか、相続登記費用の補助を研究中である。また、空家コーディネーターの募集を開始した。

質問 6

議員：空家所有者の方へのお知らせはどのようにされているか。

まちづくり課長：現在は個別に発送されている固定資産税通知書に案内を同封してるが、周知不足は認識しており、今後さらに広報を強化する。

質問 7

議員：岡山県奈義町に空き家買取・リノベーション事業なるものがある。先日若者連絡協議会の方々と意見交換会を行ったが、その中で、少子化が進み今後ますます増えるであろう空家対策として、リノベーションなどをして移住者などに住みやすい環境を整備してほしいとの意見があった。奈義町のリノベーション事業等の導入検討はできないか。

まちづくり課長：奈義町の事業は費用負担が大きく、川南町での導入は現時点では困難である。空家バンクの基準を下げることにしても、活用可能性を確保するため慎重に判断する必要がある。